



東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

2012~13年度テーマ

親睦と奉仕そして前進

編集・発行：情報委員会

—クラブライフを通じて、青春をたぎらせよう—

日時：平成 24 年 9 月 13 日 (木) 12:30~14:45

場所：八王子エルシィ

出席者：64 名 出席率 90%

(会員総数 71 名、休会 0 名)

1. 開会 飯田例会委員長

配布資料の確認後、会食が始まり、会食中に吉田会長から 20 件のハッピーコイン（後掲）の披露があった。



2. 挨拶 吉田会長



本年度のプロバスクラブの活動も、委員長をはじめとする会員の皆様方のお陰で、軌道に乗りました。

例会委員会や情報委員会は年度当初からフル活動に入り、その他の委員会も準備が整い、具体的な活動に入りました。この後の委員会報告でその説明がなされる事と思います。

先月も触れましたが、多摩、日野、八王子の 3 プロバスクラブは地理的に近いにもかかわらず、各クラブそれぞれが独自に地に足のついた活動

をしています。例えば多摩プロバスクラブでは、「2050 年の大人づくり」のテーマで、教育委員会とタイアップし、小学生の育成に関わる活動をしておられたり、日野プロバスクラブは緻密な年間活動計画のもと活動をすすめておられる等、参考になることが多くあります。こういった情報を参考にこれからのクラブ運営をすすめていきたいと考えます。

話は変わりますが、本日(9月13日)の朝日新聞に、「放射線を知ろう」のテーマで福島県飯館村の中学生を対象に東京大学の中川恵一先生が話された記事が出ていました。非常に分かり易く、この話を聞いた人、この記事を読んだ人は、放射線被ばくに関する情報に安心して接する事が出来るのではと感じました。この記事の中で、飯館村の人を対象にした「放射線や放射性物質に関するアンケート」が出ていたのですが、「知っているので勉強会は必要ない」という人は4%で、「いろいろな情報があるのでどれが本当なのかわからない」が68%、その他「知識がなく、あまり分からない」、「わからないのでもっと知りたい」、「ぜひもっと放射能について知る機会を作ってほしい」、という回答がいずれも30%を越していたのには驚きでした。福島原発事故以来1年半、その間膨大な放射線や放射性物質に関する情報が、巷にあふれ、日本国民すべてが、放射線に関するエキスパートになったのではと思っていたのですが誤りでした。情報はいかに分かり易く伝え、正しく理解してもらうか本当に難しいと感じました。プロバスクラブの会の運営も、心して皆様方全員と円滑に進めなければと感じた次第です。

3. お客様の紹介とご挨拶

本日のお客様は八王子南ロータリークラブ（RC）会長の市川和博様と、パスト会長で奉仕プロジェクト委員長の廣瀬武彦様のお二人です。



市川様のご挨拶では、八王子プロバスクラブの竹内会員には、毎月RCの例会に参加して頂き、エールを頂いている感じで、ありがたく

思っております。又大野様、杉山様両大先輩から、長年にわたりご指導を頂いており感謝しております。私がこの会に参加したのは、第1回カサド国際チェロコンクールで皆様からのご援助を頂いてからであり、その節は大変ありがとうございました。来年第3回のカサド国際チェロコンクールが開催されますので、又ご協力をお願いいたします。



廣瀬様からは「宇宙の学校」に行くつもり。この行事に桑志高校が加わっているが、先日桑志高校の校歌祭に行った。今の高校の校歌には必ず自分の高校の名前が入っているが、旧制中学の校歌には名前が入っていないのはなぜか？入っていない方が格調高く感じられる、とのご挨拶を頂いた。

4. パースデーカード贈呈



池田会員手作りのパースデーカードが、吉田会長より9月生まれの6名の会員（敬称略）岡田、馬場、野口、岡部、吉田各会員（小林貞男氏は欠席）

に手渡された。

5. 卓話 「教職時代の思い出」土井俊玄会員



「1億総教育評論家」という言葉が流行したことがあった。自身が受けてきた学校・家庭教育の基盤があるので教育

に対して意見を持ちやすいということでしょう。従って学校教育に対する批判は厳しいものがある。

教師が子どもに対する見方は、複数の子供との対比の中で、子供の特性をつかむが、一方比較しない絶対的な子供の良さをじっくり見ることに欠けるきらいがある。

親が子供に対する見方では、集団の中で子供が対応できているかどうかは良く判らない。実際親の前では良い子だが、集団の中では非行と云う例もある。一方その子の優れた資質は、親が発見しやすい場合がある。

教職38年間の思い出は、赴任した全ての学校にある。最初に赴任した高木女子商業学校では、教え子から招かれ、同窓会を中華街で行ったが、集まると昔のことが思い出される。

茅ヶ崎市立鶴嶺中学校では、届も出さずに柳島海岸で生徒と蛤を取りに行き、たき火をして焼いて食べた時のおいしかった事や、宿直時苺農家の生徒たちが苺を持ってきてくれた素晴らしい思い出があり、こうした生徒たちと同窓会で会うと、生徒と先生の区別がつかないこともある。

海老名町立海老名中学校では、ある男子生徒に「優しく、厳しく指導してほしい」と云われ、ずいぶん考えさせられた。「優しく」は、一人ひとりの生徒を分け隔てなく、差別することなく、先入観を持たずに、その子の人格を全面的に受け入れること。又他の子供と比べずに、良いことをした時や、進歩した時等に、自分の喜びとして心から真剣に褒めることではないかと考えた。「厳しく」は、他律的に力や言葉の威力によって威圧を加え、従わせることと捉えがちになるが、生徒から指導者に対する信頼と愛があれば成功するが、無ければ不信と反抗のみが生まれる。本当の厳し

さは自律的なもので、「克己心」「怠ける心」「恐れる心」「排他的な心」「他人の不幸を喜び、他人の幸福を妬む心」「逆上してすぐ怒る心」「貪りの心」「猜疑心」「自分と異なるものを受け入れない心」「他人の無能を嘲る心」「貧乏人を軽蔑する心」などの人間の弱い心を克服して、強い心を持てるようにする指導が、厳しい指導と考えた。

相模原市立旭中学校では、校内暴力や生活の乱れ、あるいは父親の酒乱による家庭崩壊事件、自身の失言による事件、卒業生同士のリンチ事件など大変な学校であった。

相模原市立大野北中学校では、投石で窓ガラスが割られたり、親子の無理心中事件や、校内見回りで火遊びを注意したら、翌日番長グループに囲まれ、袋叩きに遭いそうになったことや、気に入らない先生を殴り、先生を「うつ病」に追い込んだり、鋸・金槌で教室を傷だらけにしたり、この学校も荒れていた。

相模原市立上溝中学校でも、体罰事件や、修学旅行中の教師に暴行を加えたり、修学旅行中に他校の学生と喧嘩事件を起こしたりした。

教職期間を通して楽しいことも沢山ありましたが、強烈な記憶や印象に残るものは悪いことが多かった。これは良くして行かねばと云う思いが強かったからではないかと思う。子供達との長いふれあいで、私自身は大きく成長させてもらったといえます。38年間の教職生活は本当に楽しく充実していたと思っています。

5. 幹事報告 塩澤幹事

理事会の討議内容に関して、日野、多摩、八王子3プロバスクラブの合同交流会がもたれ、卓話や同好会の交流の話が出ており、特に卓話は好評で具体的検討に入っています。「プロバスだより」の掲載写真について、今後工夫が必要なことや、会員数は70名台で、出来れば75名くらいを考えていることや、野外サロンの候補地と日程が出された事と、サロン参加者がリピーターばかりで新規参加者を増やすには、工夫が必要なことなどが討議された。詳細は各委員会から報告されます。

6. 各委員会報告

(1) 例会委員会 飯田委員長

会員総数71名、出席者64名 出席率90%。

(2) 情報委員会 寺田委員長

今月の「プロバスだより」の編集は矢崎会員によるもので、久々の編集で戸惑われたようですが、きちんとまとめられております。投稿文は橋本晴重郎会員の「福島復興支援ツアー」と荒副会長が旅行したチベットの[青蔵鉄道に乗る]の2つと、俳句同好会便りの第2弾を掲載しています。何れも興味深い内容ですので是非お読み下さい。

(3) 会員委員会 橋本晴重郎委員長

当クラブ運営上適切な会員数は70名台と考えていますが(現在71名)、75~76名が理想的で、今年も活発な新会員の推薦をお願いします。新会員の年齢は、60歳代で10年間以上クラブ活動が出来る方で、性別は現在女性会員が約20%なので、女性会員の比率向上が望まれます。又現在もしくは過去に八王子に地縁があり、八王子に地域愛を持っておられる方。又豊富な知識・経験をお持ちの多彩な分野の方で、各委員会に所属して、自ら積極的なクラブ活動や、社会奉仕活動に意欲をお持ちの方が望ましい。

推薦者は推薦手続をとる前に被推薦者の情報を会員委員長に提供してもらい、適当と判断されてから、正規の手続きをお願いします。

(4) 研修委員会 土井俊雄委員長

野外研修については、研修委員会の総意として東日本大震災で被災した地域の方々への苦しみに共感し、言葉の一つでも掛けて慰めたいし、食事や買い物等、わずかでも地域のお役にたちたいということで、日帰りを条件に入れ、福島南部いわき市周辺の被災地を選びました。日時・場所は平成24年11月8日(木)7時八王子駅南口みずほ銀行前集合で、参加費は4,000円(東京都から助成金が出たため)で、本日申込書を提出して頂き、10月の例会で集金します。

(5) 地域奉仕委員会 橋本鋼二委員長

生涯学習サロンのアンケートまとめとして、学習サロンのテーマは自薦、他薦を含めて12名の方々の内諾を得た。野外サロンは、いろいろアイデアを頂戴した中から、富岡製糸場と絹産業遺産

群をベースに進めています。サロン運営全般(さよならパーティー等)についても検討を煮詰め中。開会式・閉会式の特別講師については8人の候補者の中から、優先順位を付けて順次当たって行く。

いくつかの広報媒体を通してお知らせしているが、一般会員の参加者の殆どがリピーターの方々で、新規会員の募集について当クラブとして知恵を出し合う必要があり、皆様の協力・支援をお願いしたい。

6. 交流担当 浅川理事

日野・多摩・八王子合同交流の中で検討中のゴルフ同好会(9月20日)での交流については、時間的に間に合わず今回は断念。囲碁同好会は八王子PCの囲碁同好会から詳細情報を出して検討し合う。その他の同好会も情報があれば出してゆく。卓話は来年2月の例会で多摩PCに参加をお願いする。又合同連絡会に幹事と理事だけでなく、情報を持つ同好会の方の参加をお願いする。

7. 「宇宙の学校」報告 下山運営本部長

配布した資料には八王子PCが行う本部の「宇宙の学校」と、桑志高校が行う「宇宙の学校」とがある。本部が教育センターで行う方は順調に参加者が集まっているが、桑志高校で行う方はやや苦戦している。桑志会場で10月7日(日)に行われる開校式には、皆様には是非出席をお願いしたい。当日は的川先生の講演会と第1回スクーリングが行われるので、桑志高校の運営がどんな状況であるかを、是非見ていただきたい。

本部が行う「宇宙の学校」へ参加される皆様の関係者がおられたら、連絡をしていただきたい。又本部の開校式は10月21日(日)サイエンスドームで行われます。曾根先生の講演とプラネタリウムが行われますが、出来れば桑志高校の方へ参加してください。

「宇宙の学校支援の会」から皆様に財政面の支援をお願いしましたが、沢山の方から支援を頂きまして誠にありがとうございました。

9. 同好会報告

ゴルフ同好会 米林会員

今年度初の第24回ゴルフコンペを9月20日に相武カントリーで開催します。10名の参加者の組み合わせが決まりました。

歴史の会 土井俊雄会員

第23回歴史の会を10月25日(木)に開催します。テーマは「徳川家・明治維新ゆかりの旧跡地探訪」で、募集人員は最大28名で定員になり次第締め切りです。集合時間は7時45分。集合場所は八王子駅南口みずほ銀行前。会費は6,500円です。当日は増田会員による訪問地説明があります。増田会員は港区郷土史のボランティア説明員です。申込票を提出してください。

写真同好会 下山会員

秋の撮影会の説明をしますので、例会終了後1階の喫茶コーナーに集合してください。

囲碁同好会 矢崎会員

秋季囲碁大会を10月26日(金)~27日(土)に行います。メンバーの皆様には資料を配布しましたので、10月の例会日に提出してください。

旅行会 渋谷会員

旅行会第1回の海外旅行でモンゴルへ行ってきました。旅行会のモットーで、愉快地楽しく、勉強になり、程々に豊かにと云うことで全員満足してきました。現在紀行文をまとめ中です。

茶道、麻雀、美術、俳句

特になし。

9. その他 立川会員

全日本プロバスクラブ神戸総会に出席する16名の方に資料をお渡ししました。

八王子フィルハーモニー合唱団のチラシを配布しました。10月28日(日)オリンパスホールで演奏会を開きます。この合唱団には5人の八王子PCの人が参加しています。希望者には入場券をお渡しします。

シニアダンディーズの第2回出前演奏をシルバードレージ八王子で9月26日に行います。

10. プロバスソング斉唱

11. 閉会の挨拶 荒副会長

本日は大変充実した例会でした。ありがとうございました。

ハッピーコイン

◆8月下旬に、韓国の「慶州ナザレ園」で慰問演奏をしてきました。大変喜ばれアンコールを6曲しました。竹島問題の最中でしたから、実施して良かったと思います。 山形 忠顕

◆生まれつき「頭と顔と口」が悪いだけで、あとは概ね普通だから、今月末に「喜寿」が迎えられそうです。元気で「卒寿」までこの例会に出席することを目標にします。 岡部 洽

◆パンダの子供が死んでから、1か月以上経つが、生まれたばかりの小動物を、素手で掴んでいたのが気になっていた。直接の原因ではないが、プロがやるべきことではない。 中野 義光

◆この夏は体調を崩してしまったので、秋には気持ちを新たに頑張りたいです。皆様どうぞ宜しくお願いいたします。 阿部 幸子

◆9月3日新病院の開院を見ることが出来ました。まだまだ行き届かぬ点が多々ありますが、ご指導いただきたいと思ひます。 根本 洋子

◆ハッピー、ハッピー!6月に曾孫誕生。男子「志龍」と命名。母子共に元気。本当に可愛い。 大野 幸二

◆孫娘が婚約し来年結婚との事。ハッピーコインで済めばよいが、恐ろしい。 岡田 尚

◆相模川ふれあい科学館で、緑と黄色の翅を黒色で縁取りした、トリバネアゲハ蝶を見ることが出来ました。 荒 正勝

◆手術の後だったので心配しながら出かけたモンゴル旅行。良い空気を吸って、食べて、飲んで、勉強して、元気になりました。ありがとうございました。 有泉 裕子

◆モンゴル旅行に参加させてもらって、生涯の記念になりました。大草原、満天の星空…何もかも。 下山 邦夫

◆長年の念願がかない、モンゴルへ行き、満天の星空を目に焼き付けました。感動の連続の旅でした。 岩島 寛

◆プロバスの仲間と行ったモンゴル旅行最高でした。美しい星を手一杯、目一杯。これが皆さんへのお土産です。 飯田 富美子

◆モンゴル旅行にご案内した13名に大変楽しんで頂き、又病気もなくて無事に終えた事を嬉しく思います。モンゴルファンが沢山出来た事をモンゴルの友人は大喜びです。 立川富美代

◆来年から始まる今年度八王子「宇宙の学校」の安全と盛会を心から祈願します。 澤渡 進

◆俳句同好会は7人で発足して10ヶ月。9月現在9人のメンバーとなりました。新鮮で刺激的な月1回の句会を楽しんでいます。 河合 和郎

◆先月は所用があり欠席しましたが、素晴らしい誕生カードをお送りいただき、誠にありがとうございました。「喜寿」と云う年齢に達した事を、家族共々喜ぶとともに、振り返って時の経つ速さに、ただただ驚いています。 佐々木 正

◆先日「喜寿」の祝いを、息子達一家で祝ってくれました。 高取 和郎

◆今月60代最後の誕生日を迎えます。今後1年間最後の60台を楽しみたいと思っております。 野口 浩平

◆孫娘が東京都の「高校吹奏楽コンクール」で上位に入り、全国大会に出場決定。孫の喜びに同調して。 土井 俊玄

◆今月後期高齢者の仲間入りをし、池田さんのバースデーカードを貰えることになりました。 吉田 信夫

投稿

優勝

東山 榮



わが東京八王子プロバスクラブには同好会が九つありますが、そのうち、競技を伴う会は三つ、即ちゴルフ、囲碁、麻雀です。私はこの三つの会に所属しております。

最初に参加したのはゴルフ同好会でした。実は入会が平成17年4月の予定でしたが、メンバーが足りないから出てくれといわれ、入会数日前の3月末に参加しました。結果は新ペリアで2位でした。それ以後は参加するだけで、低位を保っております。

次に、囲碁同好会に参加させて頂きました。3級付け出しという事でメンバー中最下位のスタートでした。ところがその年の10月、陣馬山麓の藤野町の陣谷温泉で恒例の秋季囲碁大会が一泊で開催され、図らずも優勝してしまいました。「お前さん、3級は甘いんじゃないの?」といわれまして、その後は先輩方のキツイ仕置きに遭って、鳴かず飛ばずの成績で現在に至っております。最も正直いって私の囲碁歴は古いのですが、囲碁の本、新聞等はあまり読んだこともなく、全くの笨碁(ざる碁)でしたので、なんとか勉強して少しでも先輩方に追いつこうと努力をしなければいけません、70過ぎの手習いで思うように定石等が覚えられず苦労しております。

三つめは麻雀同好会です。一昨年1月澤渡さんと矢崎さんから、「ぼけない麻雀研究会」なる同好会(賭け麻雀なし)を発足させたい、という意向を伺い、二つ返事で参加させて頂きました。と申しますのは、麻雀歴は最初に覚えたのが18才の時、その後空白期間もかなりありましたが、今日まで好きな娯楽の一つということと、私は競輪、競馬等はやりませんが、麻雀はそれらと違って他力本願ではなく、ツキもありますが自分の力である程度結果の出せるもの、という考えがあるのかも知れません。何れにしても麻雀同好会は最初から幹事を承り、去年7月に矢崎さんと交替するまで務めさせて頂きました。また、この会の場所は追分の「びおら」で、毎月第3火曜日に開催し、女性会員も参加しておりまして、特に立川さんはほぼ毎回のご出席で、お陰様で会合に花を添えていただき、明るい和やかな雰囲気となっております。私はその間幹事多忙で成績はキャリアの割に振るいませんでした。

以上、三つの同好会についての私なりの経緯でしたが、これからが本題の「優勝」についてであります。

まず、今年1月17日第25回麻雀同好会において、前人未到の三連覇を達成しました。まあ、ジャン士の間では、技術とツキの割合は七三とか八二とかいいますが、私の場合は技術よりは想定外のツキがあった結果だと思えます。

その次は5月24日GMGゴルフ場で開催のゴルフコンペです。年のせいで、このところショット、パットとも往年のサエ?はありませんでしたが、当日はショット、パッティングとも中の上位の出来で、そのうエスコアの

計算が新ペリアのため、オーバーパーのホールが大部分隠しホールとなり、ハンディがばっちりついて、図らずも優勝と相成り、パートナーの小林時雄さんから「傘寿の化け物」というお褒めの言葉を頂きました。パートナーの方々に厚くお礼申し上げます。

最後に囲碁ですが、このところ低迷を続けていましたが、6月1日の春季大会において、これも図らずも、優勝となりました。今回は実力というよりは、組合せがよかったという感じです。特に馬場さんと決勝戦となりましたが、馬場さんは失礼ながら私を苦手としていらっしやるようで、当日2度対戦して私が2勝し、優勝の栄冠を頂きました。代表幹事の下山さんはじめ、囲碁同好会の諸先輩にはいろいろとご指導を頂き、誠に有難う御座いました。

そして、ゴルフ、麻雀同好会の皆さまにも格段のお世話になっておりますことを、心より感謝申しあげ、当クラブの益々の発展を祈念いたしまして、「優勝」の美酒に浸りながら筆をおかせて頂きます。

春の花々

岡部 治

40年以上前、家内が「お茶」を習い始めたのをきっかけに、庭に茶花を植え始めました。



最盛期には百種類を越える花がありましたが、平成の初めに区画整理があつて、移植が出来ないものがあつたため、だいぶ種類が少なくなりました。茶花以外に、

花の咲く木もあるので、春は誠に派手な庭が出現します。



5月初旬の庭の風景

春は黄色の花から始まります。先ず、福寿草です。続いて水仙。やがてトサミズキ①、オウバイ(黄梅)②が辺りを賑やかにします。白イカリソウ③、ちよつと遅れてピンクのイカリソウが続きます。



① トサミズキ



②オウバイ(黄梅)



③白イカリソウ

これから白系・ピンク系が追いかけてきます。コデマリニリンソウ④、ニホンサクラソウ⑤、白ラン⑥、シラン⑦、ホウキモモ⑧、ジュウニヒトエ⑨が次々に咲き、タツナミソウ⑩、が幾つも群れを作ります



④ニリンソウ



⑤ニホンサクラソウ



⑥⑦ 白ランとシラン



⑧ホウキモモ



⑨ジュウニヒトエ



⑩ タツナミソウ

室内ではシャボテン⑪⑫が短い命を開きます。



⑪シャボテン



⑫シャボテン

珍しいキンポウジュ(ブラシの木)⑬、ヒメウツギ⑭、ハコネウツギ⑮、トラノオ⑯、ヤマブキシソウ⑰、キョウカノコ⑱が咲き 希少種のチョウジソウ⑲が咲く頃、春から夏に移って行きます



⑬ キンポウジュ



⑭ヒメウツギ



⑮ハコネウツギ



⑯トラノオ



⑰ヤマブキシソウ



⑱キョウカノコ



⑱ チョウジソウ

なるべく珍しいと思われるものをいくつか選んでみましたが、如何でしょうか？

俳句同好会便り 河合 和郎

私の一句～9月の句会から



今月から石田文彦さんが初参加。メンバーは9人となった。9月の兼題は「月」。以下9月例会の「私の一句」を紹介する。

満月を三つ切りにして送電線 東山 榮

俳諧性に富んだ句。「送電線が月を横切っている」景を俳句にする風流心がすごい。脱帽。

岩かがみ彼の日を写す旅にとり 田中 信昭

岩かがみ（岩鏡・花）が夏の季語。旅心と岩鏡がよく合う。遠い日の思い出を辿る旅心なのか。

川舟に友と酌み交ふハゼの味 馬場 征彦

友人達との夕涼みの舟の宴とは何とも風流な。酒よし肴よしで、さぞ盛り上がったことだろう。

羊群れ夏草食らふ大草原 飯田富美子

モンゴルの旅での作品とか。大平原の雄大な景がよく詠われている。男性的な力強い一句。

山の宿流れし星のあまたなり 阿部 治子

都会と違い山は闇が深いので星空は驚くほど美しい。その感動をやさしい言葉で表現している。

一息に魚捕らへたり鵜の潜り 山形 忠顕

八王子の湯殿川での実景とか。鵜の一瞬の動きをよく観察し、躍動感あふれる一句に仕上げた。

ゲル越しに淡き月見ゆひるさがり 渋谷 文雄

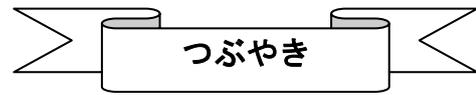
モンゴル旅行の作品。ゆったりとした時間の流れ。草原の匂いが伝わってくる一句となった。

塩辛蜻蛉群れて番ひて畑に舞ふ 石田 文彦

作者は畑作りを趣味としており、その畑の様子とか。日常の身の回りの小景をうまく捉えている。

盆の月人影絶へし村照らす 河合 和郎

震災から一年半経ってもまだ自宅に戻れない多くの方々。人影のない村を盆の月が照らすのみ。



私は、時折ボランティアとして招かれ、市内の小・中学校のセイフティ教室に伺う。保護者を含めて、子どもたちに「自分の身は自分で守る」習慣を身につけてほしいと言う趣旨のアピールのためである。会場は概ね体育館で、学年をまたいで多くの生徒たちが集合するのだが、今日のつぶやきはその風景だ。何時ものことながら、しまりがなく散漫としていてピリッとしない生徒が多数いる。校長先生と話してみても、授業中先生が注意してもお喋りを止めない、自分勝手、わがまま、自己中、飽きっぽい等々の観察コメントが返ってくる。それは、そもそも基本的な生活態度が家庭で育まれていないということなのだが、いよいよ日本社会の本質が変化してきているということではないか。現代の私生活優先の生活スタイルは、核家族単位から更に進んで、携帯電話（スマホ）の普及などの影響もあり、個人単位にまで凝縮されて管理社会からの逃避を容易にしている。「絆」という言葉の一人歩き、社会規範への関心は薄れるばかりである。因みに、警察や防犯協会では、本年度、「各種の対策支援による少年の規範意識の向上」を事業重点の一つに掲げている。（TS）

(編集後記)

暑さ寒さも彼岸までと云われますが、その通りで、厳しかった夏もようやく終わり、いろいろな活動がしやすくなりました。皆様のそれぞれの活動を、存分に推進してください。 寺田 昌章